

第3章 お兄ちゃんとナオ

ナオで一す。

レモンのこっそりライブはヤバかったなー (笑)。

配信したレモンもヤバいけど、兄貴のチンチンはちょーヤバすぎ。沸いた！

雑魚い包茎のクセにちょー絶倫とかありえなくね？ きゃぱい。ビビった。

てかカレピのチンチン、ズルムケなのに何回もできないんだけど…？ ぴえん。

(LINE 効果音)

【チカ：お兄さんのチンポ気持ちよすぎた！ 中に出されたの気づかんくらい飛んだ…！】

【ナオ：マ？ 大丈夫そ？】

【ミカ：ええっ妊娠しちゃうよ～?! 避妊なんて弟でもできるのに～】

【チカ：は？ あーね。それなー】

【ナオ：弟くんエラすぎ～レベチじゃん】

【ミカ：えっへん もっとほめていいよ？】

【レモン：チカと一緒に怒った】

【チカ：レモンーアピルも397 (サンキュー) ♥♥♥】

【レモン：めっちゃ反省してた】

【ナオ：草】

【チカ：お兄さんのチンポ ガチ絶倫だった】

【ナオ：マ?!】

【ミカ：思ったより重症…わたし心配です！】

【チカ：どちゃくそ飛んだもん ヤバすぎて沼落ちしたかも？】

【ナオ：めっちゃ楽しみ～～！】

【ナオ：レモン～ 兄貴サンに言っついて 待ち合わせ ココ】

【レモン：エキホ？ おけまる。言っとく】

【チカ：ナオの感想楽しみ】

【ミカ：手遅れにならないように祈ってます！】

× × ×

(駅前 SE)

待ち合わせのエキホ前。

あたしは時間よりちょっと遅れて到着。

先に着いて待たされるとかイヤすぎじゃん？

兄貴サンの目印は…デニムに青のロンTらしい。
あたしはゆるふわの金髪にグレーのミニワンピース。
デートじゃないからこんなもん。

バッグからスマホを取り出し、通知を確認。

いた。

目印の服の人、立ってる。

「レモンの兄貴サンー？」

あたしが声をかけると、めっちゃ安心した顔。
わかる。ホテル前で待ち合わせてドタキャンなんてメンブレ。

「ちーっす。ナオでーっす♥ よろ〜〜〜♥」

挨拶しながら初対面の兄貴サンをガン見。

「服は趣味じゃないけどーアリよりのアリ♥
さすがレモンの兄貴。プチイケメン。
ぶっちゃけモテるっしょ？」

…モテない？

ウケる。

包茎のせいじゃね？ ウソウソ（笑）。

だって絶倫っしょ？ 包茎とか関係ねー♥♥

フツのチンチンとしかエッチしたことがなかったし、ちょー楽しみ♥
とりま入ろーぜ♥」

グッと親指を突き上げ、入り口へ向かおうとする。

動かない兄貴サン。

「ん？」

ちょえ！ 兄貴サン見すぎー（笑）。

いいけどさー♥

お尻ってあたし一番アピれるとこだしー♥

あ。おっぱいは見んなー♥」

そのまま兄貴サンの腕を取ってホテルへイン。

× × ×

(場面転換)

「(ウキウキしながら) 新しいエキホ来たすぎだったんだけどー」

(部屋を歩く音)

「広くて…シンプルで…いいじゃん！
ベッドでかいし最高ー♥」

バッグをソファに放り、持ってたスマホをベッドサイドに置くと、サクッとベッドへ。
(SE)

「なに突っ立ってんのー？
もしかしてーキンチョーしてる??」

首を振る兄貴サン。
緊張してないみたい。

「ならカモンー♥」

(ベッドを叩く)

おずおずとベッドに上がってくる。

「いえーい♥」(SE)

上がったところをタックル。
テイクダウンからのマウント。

「隙ありすぎて襲った (笑)」

目を丸くしてる兄貴サンを見下ろしながら、
一気に顔を近づけ、唇をぺろり。(ちゅ)

「口も隙あり〜♥ (ちゅっ……ん……ちゅっ)
んふ♥ (ちゅっちゅ…んン)
ビビるかと思ったのにい♥ (ちゅう…ちゅ)
キスうまーい♥ 合格ー♥ (ちゅっ)」

「バンザイして？ ヌギヌギしよー♥」

返事を待たずロンTの裾をまくり上げる。(SE)

「やっほ♥

おー…乳首ー立ってるー♥

へー!

カレピのと違って毛ー生えてないー」

デコったネイルでツンツン。(左右 SE)

「ツルツル乳首ウケるー♥」

ツンツンカリカリ。爪の先であまいじり。(左右 SE)

「お。

なんか、はあはあいい出したんですけどー (笑)。

乳首よわすぎー♥

(やらしく) ってことはあ…こっちも？」

空いてる方の手でデニムの股間をナデナデ。(SE)

「立ってるー♥ (SE)

やるきまんまんマンじゃん♥

ウワサの兄貴サンのチンチン…!!

ちょー楽しみだったヤツー♥

だけどーあたしってばー美味しいもの後で食べる系ー!

ガマンできるギャル! イエイ♥」

ギャルピースにした指先で乳首をつまみながら超宣言。

「先にーカレピとできないことするー!

一度やってみたかったんだよねー♥

(なんちゃって幼児)

ママ♥

あたしおなかすいたあ～～♥」

ねんがんの授乳プレイ。

「おっぱい飲みたあい♥♥ てか飲む～～♥」

予想外すぎて？ フリーズする兄貴サンの乳首にちゅぱつと吸い付く。

「(ちゅう…ちゅう…ちゅ〜〜〜う)

(乳首を咥えながら) おっぱいでなあい♥ 兄貴ママァ、マンマでなあい♥」

乳首を舌で転がしながら大きさに甘える。

「(吸いながら)

おっぱい♥ (ちゅう、ちゅう)

おっぱい♥ (ちゅうう、ちゅうう)

はじめてのおっぱい (ちゅう) 楽しー♥

(ちゅう、ちゅうう、ちゅううう、ちゅうううううっ……ちゅ…ぱつ)

ママァ、乳首カターい。

(レロ) おっぱい吸われて (レロレロ) 気持ちいーのお? (レロレロロン)

どんどんコリコリー♥ (レロレロ)

めっちゃコリコリー♥ (レロレロ)

てかー。

ママァ? (レロ)

くっそアへ顔ー♥ (レロ)

や、メス顔ってヤツー?

コレー♥ (レロ)

授乳だよ♥ レロレロ

おかしー♥ レロレロ

もっとおっぱい吸っちゃおー♥ (ちゅうちゅう)

(ちゅう、ちゅっちゅう)

(ちゅううう…ちゅううう…ちゅっば)

(ちゅッ…れろれろっ…ちゅううう…れろれろっ…ちゅぱちゅぱ…ちゅっばあ)

はあつ。

お腹いっぱいー♥

ちょーおもしろかったー♥

兄貴サンありがとー♥ (ちゅっ)

てかー股間エグっ!

角度やばたん〜♥

兄貴サンー授乳ハマりすぎー (笑)」

ウキウキでデニムのボタンを外し、(SE) チャックをつまむ。(SE)

「めっちゃパツパツ! (SE)

てっぺんキツツ! (SE)

ねーちょい腰あげてーっ？

しゃあっ！（SE）

やたっ♥

わーめっちゃテントー！」

かわゆなボクサーパンツをガン見。

すぐに体をひねって兄貴サンに背中を向ける。

「次あたしー♥

服、脱がせたことあるー？」

ゆっくり首を振りながら上半身を起こす兄貴サン。

「よゆーよゆー！

背中ので〜ココ♥

ファスナー…下げるだけー♥

脱♥が♥せ♥て♥」

（震えるファスナー）

（くすぐったがる）

あんっ。

震えすぎい！

とりま落ち着け〜（笑）」

（SE）

モタモタなんとか腰の下止（シタドメ）まで下ろす。

「ありー♥ やればできんじゃない。

兄貴サン〜しごでき〜♥」

ひねってた体を戻し、兄貴サンの正面で脱ぎ始める。

「いっとくけど！ おっぱい小さくないからっ。

レモンとチカがデカすぎなだけっ。まじありえんてい！」

思わず立ち上がって仁王立ち。（SE）

脱ぎかけてたミニワンピースが足首までストン。（SE）

「（焦りつつ） あ」

エッチな黒下着が丸出し。

「(開き直す) どー…よっ ///」

Bカップのおっぱいを下から持ち上げるように腕組み。
一番アピれるヒップは見せつけるように左右にクイクイツ。
見惚れてポカン。なんも言えない兄貴サン。

「(嬉しそうに) なんかいえっ！ 色がオソロとかっ」

テントなパンツを踏み踏み。
カエルが潰れたような声を上げる兄貴サン。

「ほめろっ♥ (踏む)
ほーめーろっ♥ (踏む)」

踏むたびにグエグエ。ウケる。(踏む)

「ん？
待って。
踏むたび硬くなってる！
ガチガチがーバッキバキー♥ (踏む)」

(楽しそうに)
ほらっ♥ (踏む)
そらっ♥ (踏む)
ほおーらっ♥ (踏む)

あはっ♥ (踏む)
うれしそーな顔っ♥ (踏む)
ちょーウケる♥ (踏み)
ん～～♥
こんなのーどーお？」

左手を壁につき体重を乗せて、踏む。

「えいっ！ (踏む)」

聞いたことのないクソデカ声をあげる兄貴サン。

「めっちゃエモっ♥」

(こっそり射精)

「んんっ？
足…ぬる…っ？」

足裏に湿った感触。

「濡れてるっ！
あーね。
踏まれてドバッチャった系？」

膝をついてガン見。
頬を赤くして認める兄貴サン。

「ちよーへんたいじゃん (笑)。
あたしーパンツの中でイカせたの初めてかもー♥」

パンツに広がってくシミを得意げに見つめる。

「ちょ、濡れすぎ～～！
こんな履いてるのキモくね？ 絶対キモいって。
脱ご脱ごっ。
あたし脱がせる！」

パンツのゴムに手をかける。

「ウワサのチンチン…カモンっ♥」

(脱衣)

ムワツと精液の匂い。
ニョキッと飛び出るギン立ちの包茎チンチン。

「あー！
マジ写メとおんなじ！
イッたばっかなのにガチじゃん」

興奮してチンチンを最前にかぶりつき。

「包茎チンチン、ザーメンくっさー (笑)」

嬉しそうに竿を爪でひっかく。(SE)

「やべーチンチン♥ (SE)

ウケる♥ (SE)」

意表をついて指で弾く。(SE)

「ん？

声…？

今、出た。

出たよね？？ (連打 SE)

ほら♥ (連打 SE)

兄貴サンってそーゆーとこあんよねっ。(連打 SE)

新しい楽器？ (笑)

てかっ

まってっ。

あたし、ズルむけチンチンしか触ったことなかった…」

マジメな顔になって弾くのをやめる。

「えっと…。

つまんでエイってすればワンチャン？」

兄貴サンの左横に座り直す。

「ムキやすいポジションゲッター！」

右手でカリ首の感触を確かめる。

「ん？

さきっちょ引っかかるっ。

…前はちょっと動かすだけでも痛かった？

今はレモンとチカのおかげでマシになった？

マっ？

すっごー！

…徐々に剥く？ ヌルヌルだと剥きやすい??

説明助かる～～。

てかザーメンとガマン汁でびゆるびゆるだしありくね？

…唾液でさらにヌルヌル？
ありじゃん！ 最つよすぎ♥

(唾液を垂らす：れーろ)

…あとは手コキでヌルヌルなじませてけば剥ける？
おー。
あたし手コキ超得意♥
カレピの朝立ちチンチンとか生理ンときとか…ヌキまくり♥」

手を上下にエアコキしてアピる。

「とりまーさくっとヌルっちゃおっ♥
皮の先っちょー中指ーねじねじーっ♥

グーリ♪ (SE)
グーリ♪ (SE)
グーリグリっ♪ (SE)

うっほすっげ音♥

ナカも…。(SE)
ソトも…。(SE)
めちやくちゅくちゅでヌルヌルっ！ (SE)
イイ感じにアツう！ (SE)

…イキそう？
マっ!?
亀頭出る前に精子出ちゃうとかウケる (笑)」

次の瞬間、うめき声と同時にどびゅどびゅ射精。

(2nd 射精)

白い花火がたーまやー。

「めちや飛ぶっ！」

だばばっとザーメンの雨が兄貴サンに降り注ぐ。(SE)

「ザーメンでもっとイケメン。
羽ばたきすぎー♥」

手にかかったザーメンごと、チンチンを握り直す。

「チンチンやっぱガッチガチー！ (SE)

ぐちゃぐちゃーヌルヌルー！ (SE)

今度こそー剥けろー！ (SE)

あっ。

先っちょ！ (SE)

半分出たっ！ (SE)

このままっ。

ほっ。(SE)

よっ。(SE)

もうちょいっ。

やっ。(SE)

おおっ。

イケそっ！

せーのっ！

えいっ！ (SE)」

にゆるんと剥けた瞬間、うめき声。

(3rd 射精)

「ちょえっ!？」

ふたたびチンチン大噴火。

「また出たっ！」

真っ赤な顔の兄貴サンにだばぼっと降り注ぐ白い雨。

「…気持ちよすぎて暴発した??

ぜったい射精のサブスク入ってる！

ちよっとベッド降りて！ あたしの前に立って！」

改めてチンチンとド正面でご対面。

「うっ。

めっちゃザーメンくっさっ！

(鼻で：す～～)

オスの匂いえっぐ～～♥
嗅いだけで孕みそー (笑)」

(鼻で：す～～／は～～)

目を閉じて匂いを楽しんでると、跳ねたチンチンが顔にヒット。(SE)

「わぶっ！
もお～～っ。
いいトコ邪魔すんなしー！

…舐めてほしくなった？
ウケる。
おねだり下手かよー (笑)。

実はーあたしー。
フェラも最つよ♥
おなクラ女子でー一番舌なげーの♥
(見せつけるように舌を出す：あーん♥)
長い舌ってぐうエロ♥ ひひッ♥
チンチンナワバリバトルだって、全塗よゆー♥ (れろっ)

(舐めながら)
亀頭お…。 (れろ、れろ、れるる)
カリ首い…。 (れりゆれりゆれりゆりゆん)
竿お…。 (ぺろぺろ、ぺろぺろっ、ぺろろろっ、ぺろぺろろおんっ)
塗 100 パーでー (れろれろ) ガッチガチー♥ (れろれろ)」

全塗りした瞬間、腰をガクガクさせる兄貴サン。

「あっ」

声を出すより速く、鈴口から避ける。

(4th 射精)

ぶっ放されたザーメンはあたしをかすめベッドを越え、壁にびちゃっとマーキング。

(SE)

「キル武器すぎ…！
顔射されたらいたそ～～…」

目を丸くして、まじまじとマーキングとチンチンを見比べる。

「(亀頭に吸い付く：ちゅう)
カレピはお掃除好 (ハオ) だけどー (ちゅう) 兄貴サンは好 (ハオ) ー？
(吸う：ちゅうううう)」

射精後の敏感バフのせいでカラダをよじらせる兄貴サン。

「(ちゅ) キライなワケ (ちゅう) ないかー。(ちゅううううう)」

竿の根元をぎゅうぎゅうしごきながらお掃除。

「(ちゅっ) んっ。(ちゅぢゅっ) てかー、(ちゅっ) 気持ちよさそー！
(語尾で離す：ぢゅぶぶぶ、ぢゅ…っば)」

ちな、あたしのフェラー。(ぺろぺろ)
カレピにー (ちゅっ)
チンチンダメにするフェラって言われたことあるー。(ちゅっば)
ホメてるぽいけどー。(ちゅう)
なんかビミョクね？ (ちゅう)
フツーにホメろしー。(ちゅっ)
兄貴サン顔わかりやすすぎてー好 (ハオ) (笑)。(ちゅっばちゅっば)

あーお掃除したらーガチフェラしたすぎー！
岡村 (おかむら) ナオー今からガチフェラしまーす♥

(ゆっくり啜える →：ぢゅるるるるるるるるる……♥)」

お手本のようなディープスロート。
女の子みたいな声を上げる兄貴サン。

「(ゆっくり戻す ←：ぢゅろろろろろろろろ……♥)
(離す) ぶはあ…♥
フェラめっちゃ楽しー湧くっ!!
(ゆっくり啜える →：ぢゅるるるるるるるるる……♥)
(ゆっくり戻す ←：ぢゅろろろろろろろろ……♥)」

啜える力は絶妙。舌の動きは宇宙。

「(啜える →：ぢゆるるるるるるるるる…♥)
(戻す ←：ぢゆるるるるるるるるる…♥)

(啜えながら) フェラとまんなっ♥
(啜える →：ぢゆるるるるるるるるる♥)
(戻す ←：ぢゆるるるるるるるるる♥)

(啜えながら) 口オマンコとまんなっ♥
(啜える →：ぢゆるるるるるるるるるっ♥)
(戻す ←：ぢゆるるるるるるるるるっ♥)

はあはあ。

(啜える →ぢゆるるるるるるるるっ♥)
(戻す ←：ぢゆるるるるるるるるっ♥)
(啜える →ぢゆるるるるるるるるっ♥)
(戻す ←：ぢゆるるるるるるるるっ♥)

(啜えながら)
…また、いぐッ?
知ってたあ♥
ガマンしないでえ♥
いつでもイケっ♥
(ぢゆるるるるるるるる♥)
口にい中出しキメろっ♥
(ぢゆるるるるるるるるるるる♥)
出一せ♥
(ぢゆるるるる♥)
出一せ♥
(ぢゆるるるるっ!? (語尾で口内射精))

(5th 射精)

「(長い射精に驚きつつ、じっくり嚥下)
〜〜〜っ!!
んん〜〜ングっ!
んっンン…んっ!
ン〜〜〜ンっ…んグっ!!
(離す)
ぷっはあ!!
(整息しつつ)
ハアハア……。

イキオイも、味も…量も……全っ部エグ…う」

息を整えながら目の前でグニグニ動くタマ袋に目を奪われる。

「かわちい♥

めちゃ動きまくってる♥

よく見たら…タマでっか！

カレピよりどちゃくそでっか!!」

毛がもじゃもじゃのタマ袋を手のひらに乗せてみる。

「重っ!!」

どっしり感じる重みに震える。

「(ゴクリ)

ザーメンパンパンのせい？

あー！

だから絶倫！」

勝手に納得。

スッキリ笑顔でタマ袋をはむっ。

「(はむりながら) デカすぎ！ しゃぶりずらっ！

ンンっ…んんんンンン〜〜〜っ」

飴玉みたく舐め転がそうと口の中でモグモグ。

「(あむ、むぐ、あむあむ、むぐむぐ、んむんむはむはむ)

(んむ、んぐ、んむんむ、んぐんぐ、んむんむふぐんぐング)」

タマしゃぶの勢いに腰が砕け、バランスを崩す兄貴サン。

あたしを道連れに床に転がる。

「ン っ?!」

(コケる)

「(離す) はぶっ」

床の上で重なる二人。

「あ…っ ///」

兄貴サンと密着。
何気に初めての密着。

「(鼻で：す～～♥ は～～♥)
オトコのおーい♥
(鼻で深呼吸：す～～っ♥ は～～っ♥)
好 (ハオ) ♥
(鼻で深呼吸：す～～っ♥ は～～っ♥)

(囁き) あたしの匂い…嗅ぎたい？」

えっちく囁き。
すると、あたしを抱えてベッドにゴロンする兄貴サン。

(ゴロン)

「ひゃんっ!!」

上になって体を前後にぐるりん 180 度。

(ぐるりん)

「はあっ!？」

驚きっぱのあたしのお股に顔を突っ込むや、パンツの上からすーはー。
ど派手にマン呼吸。

「(照れる) えーっ!
嗅いでって言ったけどお ///
きゃばすぎー ///」

マン呼吸もそこそこ。パンツの上からベロベロ舐めてくる。

「(感じながら)
あ…っ♥
なにっ?
舐めんのっ?
んんんーっ♥ ああん♥
あれっ。
ワリとウマいつ。

でもお。
あたしっ。
マンちよくのが好（ハオ）っ。
んん♥ パンツ…脱がせて♥」

言い終わるや否や、あたしの腰を浮かせしゆるっと抜き去る兄貴サン。

（脱衣）

「マっ?!
脱がすのウマすぎっ！」

得意げに鼻を膨らませながらパンツを渡してくる。

「いーよーあげる。
脱がせてくれたごほーび♥」

兄貴サンの頭にパンツをすぽっ。(SE)

「ちょー似合ーう♥」

あたしの絶賛をガン無視。股間をガン見する兄貴サン。

「えっちー（笑）」

股間を手で隠す。
泣きそうになる兄貴サン。

「十数えるから待て」

ブンブン頷く兄貴サン。

「十秒後に丸見えになるオマンコ♥」

カウントに合わせてカラダを揺らす兄貴サン。

「(ゆっくりエロく)
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
くばあ♥」

うっすら陰毛。
自慢のピンキーでキレーなオマンコ。
穴がひくひくして、エッチな汁がびゅくびゅく。

「(やや興奮しつつ) めっちゃヌレヌレ♥」

中指と薬指をすぶり。(SE)

ずぼずぼくちゅマン。

ワザとエロい音を立てまくる。

(すぼすぼくちゅくちゅ)

「(興奮しつつ) 音っえっろー♥

あ〜…。

めっちゃペロペロされたくなってきた…っ。(くちゅちゅちゅっ)

あぁーっ。

どっかにクンニ好きな兄貴サンいないかなーっ。(くちゅ)」

秒で指ごとむしゃぶりついてくる兄貴サン。

「(感じつつ)

あんっ♥♥

イキナリ激しっ!

あっ! ああん♥

あん♥ はあっ♥ あう♥ はあっ♥ ああっ♥ イイツ♥ おおっ♥ おほお♥
んンッ!？」

舌先を尖らせてドリルみたいにほじってくる。

(クンニ:始)

「それっ!

穴ほじっやべっ♥

あう♥ あふっ♥ ああん♥

ドリルクンニやっべ!

はう♥ あふうっ♥ ひゃん♥ あんあひ♥

ほっ、ほじりすぎっ!

ひゃひい♥ はあっ♥ あはっ♥ あひっひゃぎ♥

あふっ?!

クリっ?!

あっはあんっ♥

あたしっクリ弱っ!

あっひゃんっ♥ んんっ…♥ んおっ……♥」

舌先で弾かれ、カラダがビクビク。

「あっ♥ んあっ♥ あおっ♥ あっ♥ んおっ♥ あおおっ♥」

舌べろで転がされ、カラダがうねうね。

「あんっ♥ あっ♥ あひっ♥ あんっ♥ あっ♥ あひゃっ♥」

唇で吸われて、カラダがもってかれる。

「んんんっ♥ あっあっあっ♥ はあああっ♥ ひゃああんっ♥」

兄貴サンのクンニでイカされちゃう。

「ペロペロっうまっ♥

おふっ♥ あん♥ おおう♥ ンあっ♥

カレピよりうっま♥

おっ♥ おおっ♥ おおおっ♥

ちよえっ?! イグッ♥ あっ♥ や♥ あっ♥ あん♥ ンんん♥

イッ♥ おっ♥ あっ♥ ほおおおっ♥ おっ♥

お、おおおおおおっ♥ イグッ!!」

(潮吹き)

ゼロ距離潮吹き顔射をキメる。

「(整息しつつ&興奮しつつ) はあ…はあ…イカされるとかー…ウケる…♥
クンニ鬼すぎ♥」

ビショビショなのに嬉しげな兄貴サン。

(整息)

イカされてあたしはトロットロ。スイッチが入ったのがわかる。

「(エロく) カレピがさあ…。
あたしのオマンコお…。
すぐに動くとヤバいんだってえ」

濡れた顔をパンツで拭いながら目をギラギラさせる兄貴サン。

「(無邪気に) なんかあ…。
ヒダがぎゅうぎゅう絡んで…？
粘膜がハグして？ チュッチュしてくるんだってえ？
ぶっちゃけイミフ！」

あたしは備え付けのゴムを手取る。

「そんなベタホメオマンコとー。
なんと今ならー！」

ビリっと開封。(SE)

「つけるだけでーハメホーダイ♥」

腰をグイッと突き出してくる兄貴サン。

「おけまる♥」

相変わらずビンビンのチンチンの根元を掴んでニッコリ。
亀頭の先ちょにゴムをかぶせると、そのまま根元までくるくる。

(パチン)

「おまたせーっ♥」

(SE)

言い終わる前に押し倒される。

「だいたーん♥」

脚をこじ開け、チンチンを膣口にあてがってくる兄貴サン。
慌てすぎ&ぬるぬるすぎて、にゆるにゆる上滑り。

「(やや感じながら) ゆっくりでいーよう♥」

チンチンをナビ。膣口にあてがう。

「あつつ♥」

ゴム越しでも熱くてヤバい。

腰が前に押し出され、ぬぷぷつと挿入。

(挿入)

「(感じながら) んっ♥ おっ♥ おおおっ……♥」

むっちり肉厚の膣肉がキュウウつとすぼまって侵入してくるチンチンと超密着。
無数のヒダもキスをするみたいにむちゅつと絡みついて吸いついて離さない。

「あああ…っ♥ あたしん中…すごお…♥ チンチン根元まで入ったあ♥♥」

チンチンに悦んでると、キスをしてくる兄貴サン。

「(キスされながら) ちゅう♥ ちゅ♥ ちゅう♥ ちゅううう♥
あん♥ キス♥ エロっ♥
わかってんじゃん♥ 女の…悦ばせ方♥
(自分から) ちゅっ、ちゅう、ちゅうううう♥」

キスしながら、頭とほっぺを撫で、肩や腕も触ってくる。

「(ねだるように) チンチン止まってる～～。
いじるとの夢中すぎ～～。動かせ～～…！」

下から腰を突き上げて催促。(SE)

「(感じながら) あっ♥ ヤべっ♥ (SE) キモツチい♥ (SE)」

(催促：始)

ハの字眉でガマンする兄貴サン。
目も閉じ、すぼめた口のあごには梅干し。

「いまさらガマン?? ウケるう…!
時間いっぱい…イキまくればいいじゃんっ♥」

下から突き上げ射精をあおる。
あたしにひつついて奇声をあげる兄貴サン。

(終)

(6th 射精)

「ああっ。イってるのわかるー…っ！」

ギュッと兄貴サンを抱きしめる。

「…よすぎた？

うれしー。

あたしもチンチン気持ちいいよお。

でもー。

次は一緒にイキたいかもー♥」

ニカッと笑って背中をポンポン。

力強く頷く兄貴サン。

「ゴム、一人で換えれるー？」

慌ててカラダを起こす兄貴サン。

「お？ そのままやろうとしてたくね？」

頭をブンブン大否定。

名残惜しそうに腰を引く。

「あ…♥」

引き抜かれる肉棒に密着した膣肉がぎゅううっと引っ張られる。

まるで吸いついて離さないバキュームフェラ。

「抜ける抜ける～～抜ける～～あ～…（ぶるん）あん♥」

オマンコから愛液を跳ね飛ばし、ギンギンのチンチンがぶるん。

遅れてぷっくり膨らんだゴムの精液溜まりが振り子のようにぶらん。

「抜けたあ♥」

中身がこぼれないよう慎重にゴムを外し、ゴミ箱にポイする兄貴サン。

「兄貴サン使って♥」

あたしはバッグからゴムを取り出し、箱ごと投げ渡す。

（キャッチ）

「着けてるとこみたーい♥」

近くで見つめられ、恥ずかしそうにする兄貴サン。
それでも、なんとかゴムを着け終える。

「おー♥ (軽く拍手)」

新しいゴムを着けたチンチンに拍手。
エグい角度のチンチンにうっとり。

勝手に体が動いて正常位。
流れるように、くばあ。

「(エロく) はやくう…♥」

熱い蜜を垂れ流す膣口を見せつける。
奇声を上げてのしかかってくる兄貴サン。

(挿入)

「あんっ♥」

すごい勢いでドチュン。
熱すぎる肉の槍が突き刺さる。

「(感じる) ああっ…きたあっ！
オマンコ気持ちいい〜…♥」

(抽送：始)

最初から全力。
どうせすぐイクからガマンしない。気持ちいいを楽しむ全力交尾。

「あ、あゝっ♥ これ、マジすっご♥
あ♥ あっ♥ やっ♥ あっ♥
あっ♥ あっあっ♥ あゝ あ〜〜♥」

プルプル震えてうめきながら、パンパン突きまくる。

「そっ♥ その調子っ♥
もっと♥ パンパンっ♥
もっと♥ パンパンしろお♥」

一突き一突きが微妙にずれる。
同じタイミングでも同じ強さでもないのが効く。

緩急がオマンコに刺さる。

「んあゝっ♥

あゝっ♥ ああっ♥ ンっ♥ イイっ♥

あゝっ♥ あっあっ♥ ンンっ♥ イイっ♥」

刺激されまくりの膣の中は熱い愛液をびゆるびゆる。
膣肉の蠕動（ぜんどう）も加速。チンチンをグニグニ締め付ける。
キツキツなのにトロフワ。

「あ♥ チンチンっまあたデカくなったあ♥♥

あっ♥ あっあっあっあっあっ♥」

さらに強く硬く勃起したチンチンを膣肉が抱きしめて離さない。

「や、やああっ♥ チンチンっあたしのオマンコにぴったり♥

カレピ専用のオマンコだったのにい…あゝんっ♥

兄貴サンのチンチンに上書きされちゃあん♥」

(止)

(7th 射精)

あたしの言葉で兄貴サン即死。
腰をググッて突き入れたまま、大きくビクビクっ。

「あゝうん♥ おゝおっ♥」

あたしももらいビクビクっ。

「ヘンな声出たっ♥ ハズう♥」

射精の余韻から秒で再起動するチンチン。
あたしのオマンコにハマりすぎて、抜かすの追撃。

(抽送：再)

「んゝっ!?

おっ? おっ♥

あゝっ♥ おゝおお♥ おおっ♥

んなっズンズンされたらっバグる。

あ、あゝっ♥

やだ♥ 動かし……あっあっあっ♥

すご、チンチンっ♥ すっご……♥
何っ、そんなっ♥
あゝっ♥ そこっ?!♥
ゴリッってっ、おゝっ♥
おっ♥ あゝっ♥ ンおおお……♥ おっ……♥
もっもしかしてえ…あたし…イッちやうう…?
イク? イクっ?? 包茎チンチンでイカサレっ??
だめだめだめだめっ♥ そこゴリったらあ…んっ! あゝっ♥
イグっ♥ あゝっおうっ♥ イググううううううっ♥
あうッ!! おっ♥ めっちゃイグ〜〜〜っ♥
あゝっ♥ ほおおおっ♥ おっ♥ うお、おおおおおおっつ……♥」

(8th 射精)

吠えイキ声で絶叫。海老反りで絶頂。
ものすっごい締付けにチンチンもギブアップ。

「(整息しつつ&余韻に浸りつつ)
はっ…! はー…っ! はー…っ!!
ヤ……っバ♥
めちゃイった♥
くっそイったあ…っ♥
(余韻に浸りつつ)
はあ……ガチ一緒にイケたあ♥」

余韻に浸っていると、チンチンが抜けていくのに気づく。

「あ…っ」

ブルンと抜け出るチンチン。
勢いがよすぎて、二発分の精液がつまったゴムもすぽーん。
そのまま床にべちゃり。(べちゃ)
中の精液をぶち撒ける。

「草ア…」

精液の匂いが立ち昇る中、冷静にゴムを着け換える兄貴サン。
ゴムの行方に目を奪われていたあたしの脚をぐいと押し開く。

「ゴムチェンはやっ!」

驚いてるあたしに構わず、チンチンがどちゅん。

(挿入)

(抽送：始)

「(感じつつ) あゝっ♥
またチンチンキターっ♥
あっ♥ あゝっ♥ あんっ♥ あゝっ♥ きもちいつ♥
あゝ ふんっ♥ ひゃんっ♥ あゝんっ♥ ひゃあんっ♥ きもちいつ♥
連続エッチ…ハマるう♥
あゝんっ♥ あんんっ♥ はあん♥ あひいん♥ きもっぢっ♥」

鬼のように腰をパンパンしてたかと思うと、ハメたまま体を起こされる。

(止)

(SE)

「あひゃん♥
対面座位っ！
奥に当たるから、あたし好（ハオ）♥」

腕を回し密着しながら、腰をグリグリ。(SE)

「兄貴サン…名前教えて？
名前呼びながらしたくなった…///

…つばさ??
妹レモン…兄つばさ。
ちよーウケる（笑）」

(尻掴み)

「(感じながら) あゝっ！ んあっ♥ なあにっ♥」

笑ったあたしのデカ尻を鷲掴み、力任せに前後に動かすつばさ。

(座位抽送：始)

「ちよっ！ はあっ♥ やん♥ はあん♥ あんっ♥」

デカ尻ゆさゆさ。オナホみたいに雑に動かす。

「ひんっ♥ きもちいつ♥」

思ったより気持ちいい。
オナホ扱いヤバめ。

「あん♥ あん♥ あん♥ あん♥ ああんっ♥ あん♥ ああん♥」

あたしの腰もばちくそ動く。
手を後ろ手につき、つばさの動きを激しく上書き。

「あんっ♥ んっ♥ あんっ♥ はあんっ♥
あ`ん♥ あ`あん♥ あ`ん♥ あ`あん♥
ぎもちいっ♥」

降参するつばさ。ゴムの中で熱い飛沫が弾ける。

(9th 射精)

「あーっ♥ あーっ♥ ひっ！ あたしもイクっ！
あっ♥ ほおおおっ♥ おっ♥ ほおおおおおおっつ……♥」

(止)

跳ねるあたしに跳ねるチンチン。
力も抜けてチンチンも抜ける。

「(整息しつつ) はあっ…！ はあー…っ！ はあー…っ!!
はあ…。
イツ…ちゃっ…た…」

ベッドにごろりん。(SE)
余韻にトロける。

「めっちゃ気持ちかった…っ♥
でもお…。
ぶっちゃけー。
まだ一番好(ハオ)な体位でしてなっ」

のっそり起き上がると四つん這いになって、お尻をフリフリ。

「後ろからガン突きされるのちょー好(ハオ)♥
つばさならーいくらでもガン突きしてくれるよね?♥」

ゆっくりフリフリ。露骨にアピる。

「ほおら～～？
ほ～～らあ～～？？
(挿入)
お`っ♥」

新しいゴムを着けたチンチンがどちゅっ。
トロットロの膣肉に熱々の肉竿が根元までぶっ刺さる。

「(歓喜) きちゃあああぁっ!!」

快感の電流が頭のとっぺんまで駆け抜け、たまらず絶叫。

「(感じつつ) めちゃイっ!!」

奥まで刺さる肉棒に沸きちらかす。

「きゅんすぎ…♥」

みっちり絡みつく膣肉から、チンチンがカリ首あたりまで引き抜かれる。
一突きで本気汁べっちょり。

「(抜かれるのを悲しむ) あ`っ! ああああ…んっ!？」

ふたたび、どちゅっ。(挿入)

「(感じまくり) お` ほおおおおおおっ…♥」

吠えるようなクソやば喘ぎ声。

(バック抽送：始)

「お` おっ♥ おう♥ お` お♥ おうっ♥
お` ふっ♥ おう♥ おぶう♥ おおっ♥」

お尻をガッと掴み、鬼のようなガン突き。
パンパン、ぷしぷし。
突く度にオマンコから汁が吹き出る。

「こんなんメスになるっ♥

お` ほっ♥ おふっ♥ お` ほっ♥ おふっ♥ はあっ♥ もっとお♥
お` おっ♥ おふっ♥ お` おっ♥ おふっ♥ ひいっ♥ もっとお♥」

メスマンコの奥。いつの間にか降りてきた子宮口をゴツン。

「お` ほおおっ♥
な` っ♥ ごれっ♥
お` おっ♥ ヤッバ♥」

お尻をさらに強く掴んで、ガツンガツン。

「お` っ♥ あっ♥ お` ぶっ♥ すっご♥
お` おっ♥ あ` おっ♥ お` うっ♥ エッグ♥
ヤバ♥ ヤッバ♥ マンコヤッバ♥ マンコぎもぢっ♥ マンコマジヤッバ♥
おっ♥ お` ほお♥ お` っ♥ お` おおおおっ♥」

強く掴まれすぎて尻肉は真っ赤。ガン突き止まんない。

「あ` っ♥ イグっ♥
ごれムリっ♥ お` っ♥ おほおおっ♥
マジイクっ♥ お` っ♥ おおおおっ♥
お` ほおおおおおおおおおっっ!!」

オホ声絶頂。

力が抜けて崩れ落ちる。(SE)

「(突っ伏す) ン〜っ！」

そのまま寝バック。

あたしのうなじをぺろぺろしながら、のしかかるつばさ。

「(突っ伏しながら)

あ` ♥
あん、あっ、あん♥
あっ、ああっ、ああん♥」

黒ブラの下から手をつっこみ、ナマ乳をモミまくる。

「あっ♥
ああん♥ あん♥
ああん♥ ああん♥
あんっ♥ ああん♥」

とがった乳首を指先でつままれ、ビクッと跳ねる。

「らめっ♥
それっ♥」

カラダ跳ねる。
浅く突き挿れてたチンチンがいい角度になって、Gスポットをゾリゾリっ。

「あゝ あっ!!」

そのまま往復。

「あゝ あっ♥ あゝ あんっ♥
らゝ めっ♥ らゝ つめえ♥
んゝ あっ♥ あゝ ン♥
ンゝ ああっ♥ あゝ あんっ♥
あゝ ひい♥」

真っ白になるくらい気持ちいい。
そこに、ガツン。
子宮口を押しつぶす。

「おっぐっ!?
らゝ めゝ えっ♥」

絡みつく膣ヒダにイキかけながら、ポルチオを連打するチンチン。

「ヤッバ♥ マンコ奥ヤッバ♥
おゝ っ♥ ほおおおっ♥
メスマンコくるっ♥ ぎもっぢィ♥
あゝ っ♥ イグ♥ またイグっ♥
おゝ っ♥ おゝ あゝ っ!! おゝ っ♥ おゝ ほおっ!!
おゝ っ♥ おゝ あゝ あっ!! おゝ っ♥ おゝ ほほおっ!!
おゝ おっ♥ あゝ っ!?! づっ♥ おゝ ほおっ♥
イグっ♥ イクイクイクイクイクっ♥
イっ……グうっ!!」

オホイキにチンチンもシンクロ絶頂。

(10th 射精)

「(整息&感じつつ) はあっ…♥ はあー…っ♥
はあー…っ♥ はあゝ っ!?!
だめだめだめらゝ めえっ♥

イッたのに奥っ♥ 突くなっ♥ やめっ♥ おゝ、おほっ♥」

(着電)

ベッドサイドに置いたスマホにカレピから着信。

ムリ。

今はそれどころじゃない。

チンチンスタンピード。

抜かずのおかわりノンストップガンガンギャン突き。

「おゝっ♥ んな突かれたらっ破れる♥ ゴム破れてせーしでちゃうっ♥ 孕んじゃう♥
おゝ ほおおっ♥ あ、あゝっ♥ ほおおっ…♥ おゝ おおおおほおおっ♥」

奥がキュンキュン感じる。

はじめての子宮キュン。

マンアゲぶっ飛び。

「ぐるっ♥ くるくるッ♥

んゝんゝんゝ あゝあゝあゝあゝあゝっ♥ キタっ♥

おゝ おほおっ♥ おゝっ。ほおお…っ♥ あゝ あっーっ!

すごい、くるっ♥

んゝっ♥ あゝっ♥ おゝっ♥ イっ…ちゃーっ!!」

(11th 射精)

ひときわ大きく腰を打ち付けたと思うとビクビク震えるつばさ。

「ほゝ おおっ!! おゝ、おゝ おゝ おゝ おおおおおお…っ♥

カレピ以上に息が合いすぎる絶頂。

「あはあっ♥ はあっ♥ はあ♥ はあっ!？」

とろけきってグジュグジュの膣から、肉棒がぬぼっ。

「おゝ うっ♥」

湯気が立つくらい熱気ムンムンのチンチンはついにくたあつと垂れ下がる。

「抜けちゃっ……た…っ」

ザーメンみたいな本気汁で全塗されたゴムをにゅーっとひっばって外すつばさ。
先っちょの膨らみをぶらぶら、あたしの口元に近づける。
つばさが何したいのかわかった。あたしは口を開けて舌をれろん。

「(嬉しそうに待つ) ン♥ ん〴〵♥」

ゴムの中のザーメンが舌の上にダバダバっボトボトっ。

「(嬉しそうに受け止める) ん〴〵♥ ん〴〵♥ ん〴〵♥ ん〴〵♥ っ♥

(もきゅもきゅごっくん)

はああああ〜〜っ♥ つばさのザーメン濃お…♥

ねえ。

キス…してっ♥」

眉間に縦じわ。なんとも言えないつばさの顔。

「カレピと同じ顔 (笑)。

ザーメン飲んだ女とキスしたくない顔〜。

でもする〜 (笑)。

(ねっとり) んちゅう♥ ちゅ♥ ちゅう♥ ちゅぶ♥ ちゅ♥」

呼吸ツラたんになるくらいオトナなキス。

「(ちゅうちゅうちゅれろれろちゅううじゅるじゅるちゅっちゅううううちゅっば)」

抱き合いながらワケわかんなくなるくらいキス。

「ぷっはあ…♥

めっちゃチューした〜〜ウケる♥

てか、あれ？

(照れながら)

腕枕すんなし〜。

も〜〜///

ま〜〜♥

エッチ気持ちよかったし〜〜♥

またエッチしたいって思うエッチだったし〜〜♥

許すっ♥

てか、ハマったかも〜〜♥」

感情グッチャグチャのあたしのほっぺにキスしてくるつばさ。

「ちよっ///

ドキってしたっ。
いやいやっ！
カレピ以外のキスでドキドキするとかないないっ」

(部屋の電話)

「あっ……時間？
はっや…！

(取る)

「延長なしでー」

(切る)

「…ありだった？
なしなしっ！ これ以上あたしヤバい死ぬ！」

真っ赤な顔でくねくねしながら手でバツテン。

(着信)

「あ。カレピー。
さっきも着信あったなー。
ちょっと出るー。

(ポチ)

もしもしーあたしー。
今？
映画館ー。
チカと映画ー。
言ったじゃーん。

(やや焦りつつ)

は？
GPSだとホテル??
誰が？ あたし？ マ??
チカとずっしょに映画だつてば。

(開き直る)

てかーGPSとかなに？
ふつーにキモいんだけどー。

ヤバすぎてメンブレー。
あーあー。
せっかくいー気分だったのにー。
もおムリーーっ」

(切る)

「(嫌そうに)
まって！
カレピがGPSで監視してた！
ホテルにいるだろってキモすぎヤバ!!

(着信)

またかかってきた！
ウザっ。
着拒しか勝たん！

(タップ)

(軽く聞きつつ、内心プチドキドキ) ねー。
つばさってさー。
今フリー？」

急にふられて目を白黒させるつばさ。

「(恥ずかしそうに) フリーなら付き合おー？
セフレもアリだけどー…。
あたし的には一カレピのがいいかも…♥ (語尾小声)」

つばさの顔見れないあたし。超乙女。
照れながらハッキリ頷くつばさ。

「やたっ！
どちゃくそ沸いた♥
うれしすぎんだけどー♥
記念にツーショ撮るー♥ 撮ろ撮ろー♥」

無理やり腕を組んでギャルピース。

「いえーっ♥」

(写メ)

「つばさの顔ウケる。

マジメかつ。

もっと笑え！（笑）

でもおもしろいから、おけまるー♥

コレ、レモンに送るねー♥

新しいカレピって驚かせる（笑）」

（送信）